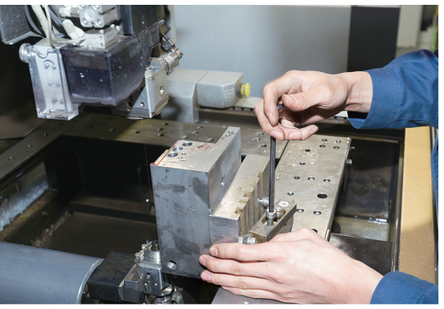
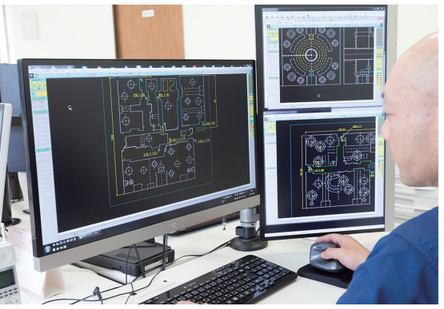
有限会社 牧田金型製作所

▶対 象 類 型　精密加工
▶事 業 類 型　一般型　設備投資
▶主たる目的　生産性向上

独自設計金型で他社との更なる差別化を図る為の最新ワイヤー放電加工機の導入









2
3
4
1

1／高精度の加工が可能となり生産性も高まった最新型のワイヤー放電加工機。
2／金型の加工が高精度、短時間、低コストに。
3／最新の加工機が導入されて移転した新工場。
4／設計段階から関わり、顧客が使いやすい金型の製造で差別化を図る。

最新の加工機で実現した、軽量・高精度・低コストな金型。

牧田金型製作所は建材を中心にプラスチック押出成形金型を製造し、近年は自動車用の金型にも事業分野を広げている。同金型は特殊技術を必要とするうえ、独自設計を取り入れた製品への新規受注が増加する中、新工場を移転するに当たって最新型のワイヤー放電加工機を導入した。

同加工機は、同社の旧型機と比較して▽加工のテーパー角度が大きい▽面精度の高い加工ができる（旧型10μm>新型2μm）▽加工速度が50%アップ▽ランニングコストが20%減ーなどの特長がある。テーパー角度が大きくなることで、より少ない原材料で低コストかつ軽量な金型の製造が可能に。加工速度の向上やランニングコストの軽減は、コスト面の競争力を高めた。精度の向上によって、より厳しい基準を求める大手自動車メーカーや電装メーカーの要求に対応できるようになり、従来は精度面で受注を断っていた金型の製造が可能となって受注機会が大幅に拡大。一人の従業員が従来機との二台体制で作業できるようになり、人件費は変わらずに製造量が増加。新工場での体制強化で従来の顧客からの受注増に加え、新規顧客からの受注も大幅に拡大し、納期短縮も可能となり、導入初年度に売り上げ高76%増を達成した。

注目すべき成果

製造量が大幅に向上。

ワイヤー放電加工機が二台体制となり、基本的な製造体制が強化されたことに加え、最新型ではより低コストかつ短時間に加工ができるように。精度も大幅に向上し、多様な顧客のニーズに応えた受注が可能となった。

注目すべき成果

より顧客が使いやすい金型を製造できる。

加工精度の向上は、同社が目指す「顧客が使いやすい設計・製品づくり」にも貢献する。高精度の金型は顧客側での調整も安易になり、温度調整の時間も短縮される。軽量化は現場での扱いやすさも高める。

今後の展望

新ジャンル、海外への展開も。

最新加工機の導入と新工場移転で、新分野の自動車や電装関係の強化に繋がった。国内では押出成型金型の発注に苦慮している企業が多いため、より幅広いジャンルでの受注増加を目指すほか、海外展開も目指す。

ものづくり専門員から一言

災難も自社の存在価値を探る機会。

経営方針を変えた原点は、“火事”。12年前に起きた事件は、自社の経営の原点を見つめ直すことを余儀なくさせた。熟慮の末、取引先からの声を受け再建を決めた。その際「価格競争はしない」ことを決意。自社の“コア技術”を「お客様視点」に活かすための補助金活用が、次の事業展開に結び付いている。

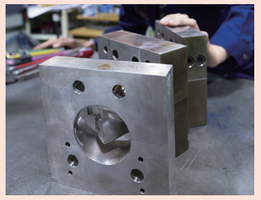
こんな会社です！

「独自設計」が、譲ることのできないプライド。

「独自設計」であるところが、当社の一番譲れない、こだわるところです。発注された製品を製造するのではなく、設計前のゼロの段階から製造に関わっていくのが、当社のモノづくりです。目指すのは、使いやすさ、調整しやすさを最優先して金型を製造すること。お客さんとコミュニケーションを取りながら、設計レベルから使いやすさを考え、製造したものの修正、調整を重ねながら、一緒に金型を作り上げていく。精度や予算面など、多様なニーズに応えた金型を製造できることで、他社との差別化と市場力の強化を図っていきます。



代表取締役
牧田 崇史さん



設計段階から最終の調整まで関わって製造する金型。



本社・工場

有限会社 牧田金型製作所

代表者／代表取締役 牧田 崇史
設立／昭和59年（1984年）4月
資本金／300万円
従業員数／7人
事業内容／押出成型金型の設計・製作
売上高／1億円（27年4月期）
〒915-0054 越前市小野谷町4-3-9
☎0778-23-6321　FAX.0778-23-6391
URL http://makida.co.jp
E-mail info@ makida.co.jp